

2022年
秋季号

みずま雪絵と歩む会

〒125-0063

葛飾区白鳥3丁目26番13号
中村荘101号室

TEL6662-7623 FAX6662-7617

編集責任者 望月 行雄

あきらめずに声を上げ続けよう

いつも大変お世話になっております。7月の参院選以降、街頭演説中に銃撃され死亡した安倍元首相の「国葬」や、銃撃した犯人の犯行動機から世界平和統一家庭連合(旧統一協会)と政治家との結びつきが問題となり、世論は揺れています。また、東京オリンピックのスポンサー選定を巡る汚職事件も明らかになりました。

一方でコロナ禍が加速させた生活困窮は、公的支援施策の不足を露呈させました。ロシアのウクライナ侵攻の影響での物価高がさらに追い打ちをかけています。

「女性の自殺は二年連続で増加し、「先進7カ国(G7)のうち、日本の自殺率は最も高く、女性はワーストだった」と報道されています。自助・共助を押し付け、利権へ税金が流れていく政治が続けられてきた背景で、貧困・孤立が拡がり生きづらさが増しています。政治の転換が今こそ求められているのではないのでしょうか。

憲法を基軸に「安心して働き、生きていける」「どのような状況でも人間らしい住まいと生活が保障される」という当たり前の要求を、あきらめず声を上げ続けていきたいと思えます。

「国葬」 葛飾区は庁舎など公共施設で半旗掲揚

9月27日に行なわれた安倍元首相の「国葬」で、葛飾区は庁舎を含め4つの公共施設で半旗を掲揚し弔意を示しました。23区では葛飾区を含めて8区が公共施設で半旗掲揚し、弔意を示したと報道されています。

みずまは『安倍元首相の「国葬」に際して、弔意表明を要請しないこと』と半旗掲揚も行なわないことを区長と教育長にたいし、9/20 賛同いただいた他会派と申し入れをしました。

国からも要請はされず、世論が分断されている中、区が半旗掲揚し弔意を示すことは行なうべきではなかったと思えます。

